

2025 年度がスタート！鎌倉の海を守る会 6 名で藤沢土木事務所を訪ねました。

令和 7 年度は神奈川県、なぎさ港湾課も道路維持課でも担当職員が変わりました。複雑な事情が絡み合う鎌倉市の海岸行政の中で、これまでの経緯についてどの程度理解されているのか？当会から働きかけて積み上げてきた諸々はどうなっているのか？今期の担当者に確認することにしました。

国道と海岸の管理者であり侵食対策として養浜事業を推進する神奈川県藤沢土木事務所の中で、海岸管理と養浜事業を担当する「なぎさ港湾課」  
国道 134 号線で発生し続ける陥没の復旧を担当する「道路維持課」に分かれます。

テーマは「海岸構造物」「水みち」「擁壁」「養浜モニタリング」

市民スタンスからの意見を二課の担当者と同時にお話しする必要がありました。



5 / 1 藤沢合同庁舎大会議室

なぎさ港湾課課長 他 2 名。道路維持課長 他 2 名。合計 6 名でご対応いただきました。

稲村ガ崎西側の国道は一部が盛り土であり、地盤から地下水が湧きだす海岸です。海面上昇に伴う砂浜侵食の影響で海岸と国道 134 号線は一体で深刻な事態が続いています。歩道通行止めと夜間工事が続き住民の不安が続いています。  
3 回目の養浜実験が終ると小石と陶器片だらけの海岸になりました。

県では養浜材投入現場に 6 台のタイムラプスカメラを設置しているのですが、海側からの視点がありません。行政側から見えていないところを撮影した映像を見てもらうことで、官民間で共通認識を得ることが出来たと思います。

自然現象で発生する「イナムラ特有の事態」を説明し、擁壁工事について口頭で意見しました。他、短時間で雨水管から出る雨水の様子など、レアなローカル情報を提供しました。

### 1) 三回目の養浜実験における監視カメラの画像について

第6回鎌倉海岸七里ガ浜地区侵食対策協議会 資料1 ページ16

図8(2) ドローン画像(2024年9月4日) に写っているモヤモヤは流出する砂の様子を捉えたものではないかと協議会で質問し、明確な回答がないままでした。

その続き・・・

タイプラプスカメラの画像を確認されましたか？

【なぎさ港湾課回答】写真の合成によるものであり、堆積ではない。



いやいや、「堆積」ではなく「流出」を指摘



ここですよ！

「茶色いモヤモヤは、養浜材が離岸流で流出する様子ではないか？」と指摘したのですが、ご理解いただけていない可能性があります。

神奈川県なぎさ港湾課の回答では納得ができません。

当該写真データの公開を求めます。写真を共有していただきますようお願いします。

## 2) 養浜材に混入した陶器片をモニターしてほしい

令和6年度養浜工事（令和7年2月～3月施行）の養浜材に陶器やガラスなどの破片が大量に混入していました。離岸流により流出して西向きに漂砂していることを示す証拠物件として提示し、養浜材の一部が西に移動すると理解して今後の養浜事業に活かしていただきたいと申し入れました。

極楽寺川から流出した陶器片等は、時間経過とともに西側の砂浜で取得されています。漂砂の指標として陶器片の移動を記録してみました。情報として記録していただきたい。磯波の「砕波帯」と離岸流が発生する「チャンネル」が複雑な渦と流れを発生させるエリアでの漂砂モニタリングに、これらの陶器片を利用できるのではないのでしょうか。

これから漂着する陶器片の収集は、市民活動（かまうみ・ぴっかんどロッパ）で可能です。材の質としては残念な結果ですが、神奈川県にはこれを利用して、漂砂事象を養浜事業の記録となりますようお願いします。見えた物事を正式に残す努力をしてほしいと思います。



陶器片が極楽寺川（導流堤の西側）から流出し、七里ヶ浜に漂着した証拠物件となります。行合川に漂着してカマウミが取得したのは、養浜工事終了後、流出から1か月後でした。

### ☆カマウミの提言！

極楽寺川から発生する西向きの漂砂がある。

キシベ～カワマエの棚と、行合川の河口に堆積する。

小動岬東側のブロックが埋まっていくことから、最終的に小動岬の東側に堆積すると推測できる。

漂砂した砂を極楽寺川の西側へ「サンドリサイクル」することが養浜事業の次の展開となるのではないのでしょうか。

今後のために令和7年度以降の擁壁工事では、将来的な養浜工事用の道路が必要になる可能性を考慮し周到に計画するべきではないのでしょうか。



### 3) 既存の海岸構造物について

海岸の構造物について「知らない」というのは、神奈川県行政での異常事態です。図面や資料等一切ないから「わからない」とは、海岸管理者として適切でしょうか？行政上の整理をつけることは、神奈川県藤沢土木事務所における行政課題です！

#### ☆カマウミの提案☆☆

七里ヶ浜にはいくつもの構造物が連続して在り、それぞれが反射波を発生させて相互に影響を及ぼし、構造物の基礎部分では洗掘作用が発生しているので、それらの作用が侵食の要因にはならない。養浜事業に影響しない。とは言えないと思います。

「橋」「水たたき」「導流堤」など、現存する全ての構造物を採寸して、設置方向も大きさも正確に海岸地図に落として、その情報を共有していただきたいと希望します。その上で養浜事業を検証することが可能なのではないのでしょうか。

雨水放流口は滝、水たたきは激流になり砂を押し流す。既存の施設を改良する必要があるのではないかと？柵で受けてゆっくりオーバーフローする仕掛けはどうか？

【なぎさ港湾課回答】砂浜にあるものについて調べていく。

(少し言葉が弱かったのは、消極的ということでしょうか)



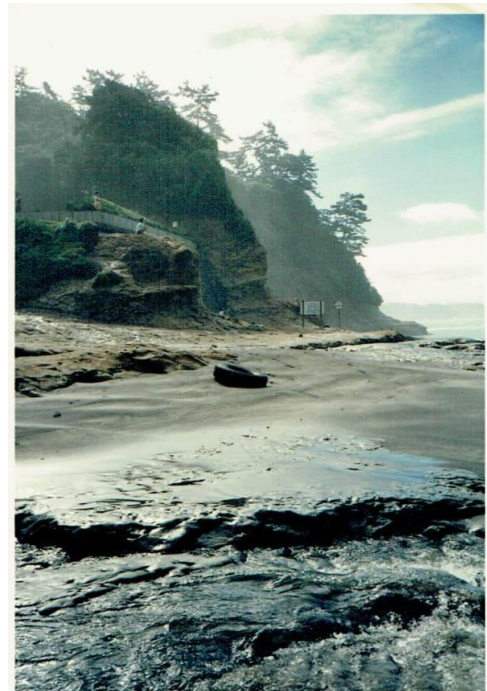
#### 4) 養浜実験3回目の場所と100メートル続くコンクリート壁についての情報

2005年3月に養浜材を投入した極楽寺川河口は高波が押し寄せて、引き波が強い離岸流となります。過去にも砂がさらわれて露岩状態になったことが分かっています。

海水面が上昇した今、台風時に国道上に海水が上がることもあります。

国道の擁壁の高さを増すとか、上部を波返し形状にしなくても大丈夫なのでしょうか？と地域住民は心配しています。カマウミはどのように行政に届けるのか・・・とりあえず・・・

昭和時代(1930年代)の写真で振り返り。神奈川県職員に、この海岸の環境を伝えました。

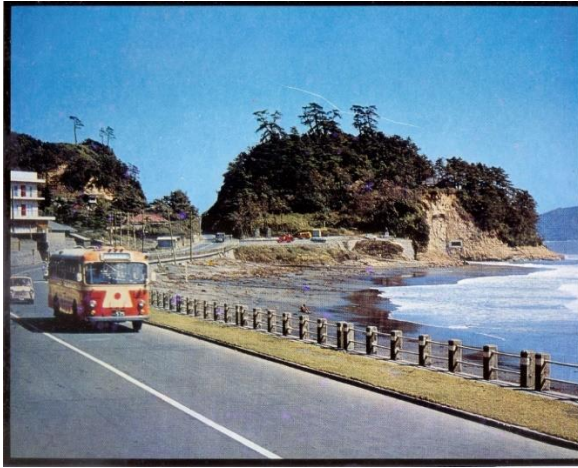


1997年の台風で破壊された海水浴場の施設。導流堤が無かった頃も極楽寺川河口が露岩したことがありあした。夏は砂が無くなり、冬に戻ってくるという自然のサイクル季節変動。



砂浜が広い昭和。丸階段に隣接する舞台のような構造物が、問題の「コンクリ壁」です。





鎌倉海浜公園が供用開始した昭和 39 年  
 国道のすぐ下まで高波が洗った後、干潮時の様子。電信柱の辺りから出る水みちが見えます。  
 約 100m のコンクリ壁がいつどのように作られたのか分かりませんが、国道の付帯施設で  
 あると思います。コンクリ壁が必要な理由：地下水の湧出。地盤が緩いのではないかな？



2018 年 壁の上は傾斜。



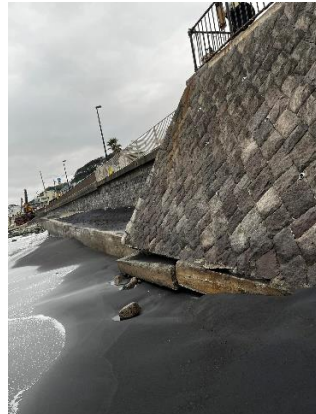
2023 年亀裂から砂が噴出。天面の陥没が顕著に。



2024 年、階段の基礎が剥離して下降。翌年 1 月セメント袋で補修したが沈下が続いている。

筆者の独り言・・・

言葉なく不安な住民。早く養浜して埋めたい行政。基礎調査が足りてないと思うカマウミ。



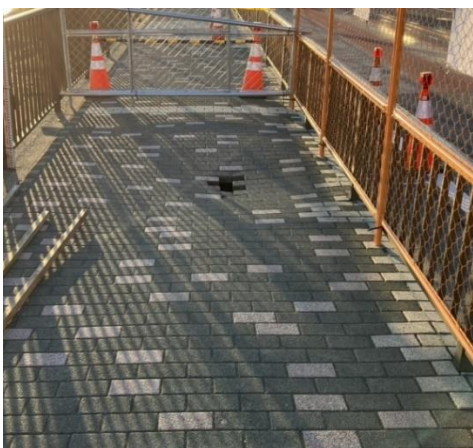


2025 年 3/12 極楽寺橋の西側。養浜工事完了後すぐに養浜材流出。橋桁の中が見えた 3/18



コンクリ壁に擦り付けた養浜材 3/7

全て流出し壁が露出。壁の入角奥に流水確認。



真上の歩道上に陥没穴が発生した。3/20

【なぎさ港湾課回答】稲村ヶ崎駅入り口交差点から稲村ヶ崎公園前の交差点において、車道と海側歩道の空洞探査を非破壊で行いました。



5) 国道下が空洞化して危険な「現場 Ý」(wai) を調査をしてください。

鎌倉市の公園予定地(稲村ガ崎3丁目)の擁壁工事は鋼矢板に化粧パネル工法で行われ、内部が空洞のままパネルで閉めてしまいました。それが現場 Ý です。Wai とはハワイ語で「湧く」ことを意味します。しぼり水が集まる沢「スベカワ」の範囲で、擁壁の下から常に水が出ています。雨の後数日間「しぼり水」で川のような流れが発生します。



西側から施工した鋼矢板の最後のところ。コンクリートを破いて出続ける黒砂と水がある。



擁壁基礎下の空洞は2mのポールが全部入る。一部岩着の基礎が傾きブロックには亀裂。

☆カマウミから要望します！

水による地盤流出が心配。国道下に深刻な空洞があり道路が崩落する可能性があります。

稲村ガ崎駅入口信号付近と同じ調査が必要と思われますので、早期に実施してください。

【道路維持課回答】次の工期にパイル工事を延伸する。デコボコの擁壁を一直線につなげる。



## 6) 擁壁のパイル工事では「水みち」をどのように処理するのですか？

海岸に出る雨水や擁壁から出るしぼり水、階段基礎の下から湧く湧水の様子など、稲村ヶ崎の西側で撮影した動画を3本見ました。

杭打ち工法で地下水湧出をシャットアウトするのはどうか？地質は大丈夫か？

地盤から湧き出る水の処理は重要な地域問題で地域行政の課題です。

と訴えますが、筆者個人としては、現代土木の技術的な限界を感じました。

## カマウミからの質問

黒砂の流出とともに水が出ている場所について、そのままパイルを立ててしまうと、

住宅側に液状化・空洞化が起きるリスクが心配されます。何か対策がありますか？

【藤沢土木事務所回答】化粧パネルに水抜き穴を設置する以外に方法がない。

地下水により地盤が流出して、国道の舗装下が空洞化していますがどうしますか？

【藤沢土木事務所回答】裏込め材が流れないように、水抜き穴にフィルターを設置する。

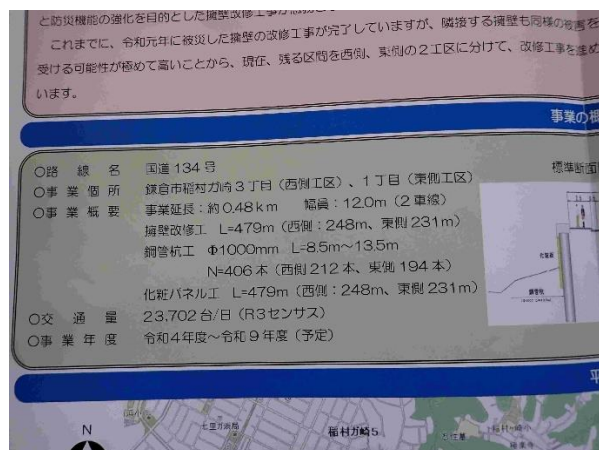
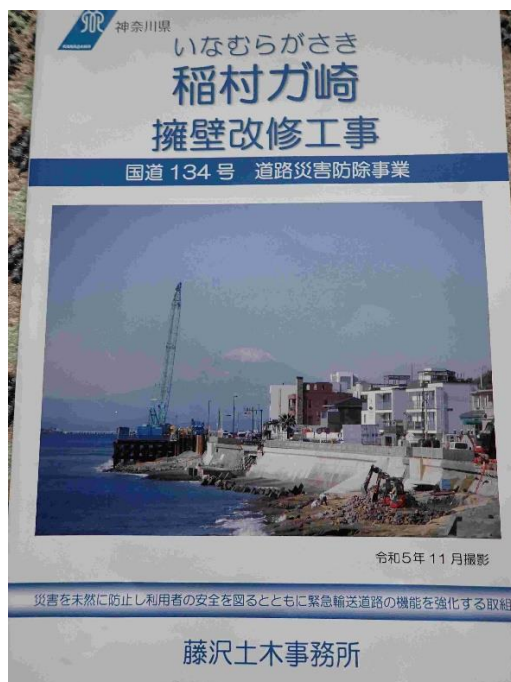
フィルターが詰まると地下水を擁壁外に排出できなくなりますが、どうなるのですか？

【藤沢土木事務所回答】・・・

## カマウミの意見！

付近の住民は自宅の基礎が水浸しになる可能性を心配しています。もし、地域住民が納得できるようなご回答が無ないと、そのパイル工事待った！という可能性もあります。

藤沢土木事務所の回答でしょうか、工事概要を記したリーフレットをいただきました。



## 7) 丸階段の現状、海岸からの避難路について

稲村ガ崎駅入口信号の丸階段から七里ガ浜駐車場までは国道への避難路がありません。南海トラフ地震や首都直下型地震の災害に備えろという政府広報がある中で、全国で最も多い海浜利用者の安全に関する配慮が欠けていると言わざるを得ません。どうするの？

カマウミから県の養浜事業に際し「海浜利用者が利用できる避難路を設けてください」と、繰り返し要望してきました。直立護岸では登れません。擁壁改修計画に避難路設置を！！

稲村ガ崎海岸から国道への避難路（国道付帯施設）丸階段の状態を確認しました。



2018 年、基礎は丸出しだが、岩盤を黒砂が覆う



階段下の岩盤にノッチ形成中と判明。ノッチの奥にコンクリ塊と断層が見えた！2024 年



復旧階段は急傾斜で危険！利用できないままです。

カマウミ☆ 隣接する雨水管放出口（袋田の滝）はどう収まるのか？条件に沿った整備を。

【道路維持課回答】稲村ヶ崎駅入口交差点付近の階段はつくり直す方向です。

写真の階段は、どのような対応が可能か検討します。



## 8) 季節変動を知ること！養浜のインジケーター「音無川の消波ブロック」に注目！

七里ヶ浜は昔から季節変動する砂浜です。梅雨時期～夏の台風時には砂が減少しますが、冬の季節風（強いオンショア）が安定して吹けば砂が戻ってきます。砂が増えたり減ったり、**波が砂を持ち去ったり、寄こしたりするのが、稲村ヶ崎から七里ヶ浜の特徴というのがカマウミの主張です。**養浜事業を進めるうえでご承知いただきたい事象の観察対象として、音無川の東側に置かれたブロックが砂の堆積指標になるので注目してください。



2024年2月 冬の風で砂が戻る。



2024年6月 再び砂が減った。

復旧階段に近いブロックは岩の上に在り動かないので、砂の堆積を測る指標となる。



2025年3月ブロックの下は岩盤が見えない。

養浜材が堆積してきて釣りが出来る程度に前浜が広がった。次の春夏はどうなる？

## 9) 岩盤を守るための養浜事業では？構台設置のために岩盤を掘削！

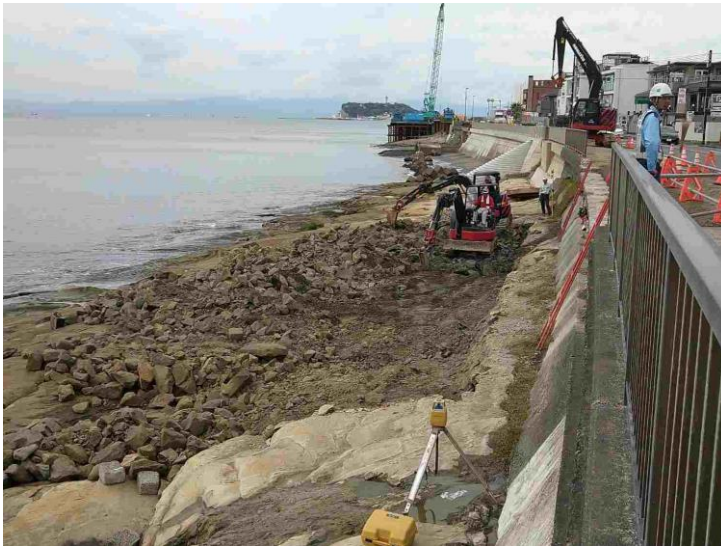
国道擁壁の改修工事をするために資材や重機を載せる作業構台が設置されています。

2024 年、池田丸の前で問題が発生しました！

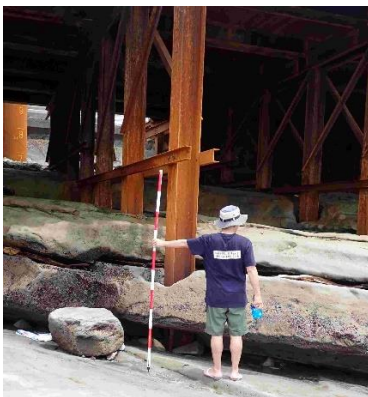
国道を高波から守るために必要な岩盤を、国道を守るために必要な構台を設置するために掘削して海岸地盤を掘り下げてしまったのです。これにより満潮時には国道の足元まで海水が上がってくる条件となってしまいました。そもそも岩盤を守るための養浜事業のはず。どのように整合性を保ち、どのような補修が可能なのでしょうか？

目の前の問題にとらわれてしまった結果の痛恨のエラー事例だと言えます。

藤沢土木事務所は、この件につき無言で岩盤の復元案は提示されません。



掘削作業の現場 2023 年 11 月



構台脚部の H 鋼材が守るべき岩盤を貫き破壊している。果たして補修ができるのか？

カマウミから意見！

高潮が国道上に越水する可能性が否定できない場所。現場状況の監視を続けてください。  
構台を撤去した後の対策について説明を求めたい。これ以上海岸を痛めるな！と言いたい。



## 10) 腰越漁港改修の影響を無視することはできない！カマウミの発端だから

神奈川県より第6回侵食対策協議会議事録の確認を求められ、奥田委員から旧年度中に修正の旨を返信したのですが、どうやら誤解が生じているらしい様子・・・

カマウミからなぎさ港湾課に重要なポイントなので正確に記録するようにお願いしました。

協議会会長が「15年ほど前から侵食が顕著なのはどうか」の発言を受けて、奥田委員が「腰越漁港改修の影響があるのではないか」と応じたところ、会長は「バックデータが無いからわからない」と答えたのがその経緯です。まさに腰越漁港改修事業計画の見直しを迫り、実施後のモニタリング調査を求め発足したカマウミ活動のテーマです！

「小動岬」は昔から存在しています。昭和39年に開港した漁港の防波堤を80m沖出しした工事は平成19年～26年（2007～2014）でした。その後、神戸川河口に砂が堆積し国道に溢れ出すまでになり、鎌倉市がトンパックに詰めて公園予定地に積み上げたのです。



2020年正月。稲村ヶ崎の鎌倉海浜公園から

画面手前に音無川。ウバガヤのリーフの向こうのへこんだ地形が、スベカワ～wai。  
神戸川河口に堆積した砂を鎌倉市農水課が袋詰め、公園課がゲンコツに積み上げている。



小動岬から突き出す防波堤。先端に赤塔。

改修前の漁港は小動岬に隠れて見えなかった。漁港の拡張工事により漂砂系が断たれた可能性を否定できない。科学的根拠を求めようにもバックデータが無いのは漁港管理者（鎌倉市）または、海岸管理者（神奈川県）の責任ではないのですか。今後の鎌倉市の海岸行政に影響することでもあるので正確に記録し、鎌倉市が当事者意識を持つことが必要です。